



WITE SOCIETY SIX CONCERT

KITE SOCIETY 第8回定期演奏会

73. 3. 31 <土>PM 6:00

長野県勤労者福祉センター

指揮

山本 昇

宮下 荘治郎

塚越 憲二

賛助

長野高校合唱班

<ごあいさつ>

春三月も末、またカイトの時期がやって参りました。
今宵のステージ、拙なるものではございますが、精一杯の歌声にのせてまとめあげたいと思っております。

ささやかなひとときが合唱音楽の楽しさをともにわかちあう機会となりますことを願いつつ……。

——カイトソサエティ——同

PROGRAMME

I 多田武彦の作品より

指揮 塚越 憲二

演奏 カイトソサエティ

- 両国
- 片恋
- 人間の歌
 - I 縫ひつける
 - II 涙の塩
 - III 浜の足跡
 - IV また一つ
 - V 木がらし
 - VI 年の別れ

II ポピュラー

指揮 六川 修一

演奏 長野高校合唱班

- 人生ばんざいノ
- グリーンスリーブス
- 500マイル

III ルネサンスのしらべ

指揮 宮下 荘治郎

演奏 カイトソサエティ

- AVE MARIA
- MATONA MIA CARA
- Amor im Nachen
- Innsbruck Ich mup dich lassen

IV 走れわが心

指揮 山本 昇

伴奏 篠原 真木子

演奏 カイトソサエティ

長野高校合唱班

<多田武彦の作品より>

男声合唱といえども“多田武彦”の名前が出てくるほど、多田氏の作品は私たち男声合唱を行なっている者にとっては欠かすことのできないものになっております。その美しい独特のハーモニーと曲想は、いわゆる“多田節”と呼ばれ、多くの男声合唱団のレパートリーに加えられ広く親しまれております。

今回は、彼の多数の作品の中から、堀口大学の詩による組曲「人間の歌」全曲、木下柰太郎作詩「両国」、そして北原白秋作詩「片恋」を選びました。「両国」は、組曲「木下柰太郎の詩から」、また「片恋」は、組曲「雪と花火」においてそれぞれ第1曲として歌われる部分です。では最後までどうぞごゆっくりお楽しみください。

<人生ばんざいノ> <グリーンスリーブス500マイル>

我々は、とかくロシア民謡、黒人霊歌などどちらかと言うと重々しい曲をやりがちだったので今回は趣をかえ、軽快な曲を選んでみました。やなせたかし作詩、矢田部宏作曲の「人生ばんざいノ」は、音楽之友社合唱曲懸賞に入賞した作品です。歌っているうちからだ全体がはずみだし、心までも晴れ晴れしてくる、そんな曲です。つぎのイギリス民謡「ラブリー・グリーンスリーブス」と「500マイル」は、我班の顧問をしておられる山本先生にアレンジしていただきました。我々一同少人数ながら精一杯演奏したいと思います。

<ルネサンスのしらべ>

バレストリーナ、ラッソを頂点とするルネッサンス時代の合唱曲は将に殊玉、それも小さな宝石の大きな輝きを思わせます。

最近合唱界でこのジャンルの作品が取り上げられる機会が多くなり、私共にまたひとつの楽しみを与えてくれるようになりました。

私達も一昨年よりの近代の宗教歌から、シューベルトを通じ、今回このルネッサンスの調べに取り組んでみました。

宗教曲としては、有名なバレストリーナの作品から、美しい「アヴェ マリア」の調べを、そして、世俗音楽としては、バレストリーナと同世代の活躍者O、ラッソの「マトナの君」さらに後に続くG・ガストロディ「小舟にのる愛の神」、最後にH、イザークの男声のためのオリジナル「インスブルックよさようなら」の4曲をお送りしたいと思います。いずれも、おなじみの美しいメロディが交錯します。

<走れわが心>

かつての鉄道の王者、蒸気機関車SL一は、近年つぎつぎにその姿を消しつつあります。「走れわが心」は、その去り行く蒸気機関車への郷愁をうたい、それはそのまま古い石炭エネルギー時代への挽歌であり、機械と人間とがお互いの魂の触れ合いの中で生き抜いて来た、厳しくもあたたかい人生の回顧でもあるのです。

この作品は、作曲者大中恩氏が伊藤海彦氏の詩に感動し、1969年に出版されたもので、当時の芸術祭奨励賞受賞作品に選ばれております。約二十分を歌い通す重量感あふれる作品ですが決して重苦しさを感じることはないでしょう。合唱がピアノとともに力強く歌いあげるリズムと色彩をじっくりご鑑賞ください。

<カイトプロフィール>

低迷状態と言われながらも、今年で第8回をむかえたカイト、長野高校合唱班を巣立ち、北は北海道から、東北、東京、そして関西にと、全国各地に散らばったカイトの仲間達が、3月も中頃、そろそろ春の便りが、あちこちから伝わる頃になると、男声合唱という恋人を慕って、いつしか長野に集まって来ます。すでに会員も100名余となり、意欲的な活動を続けております。単位が取れなくて2日前頃にかけてける者、命をかけた恋が破れ、しょんぼりやってくる者、毎年前日に登場して、本番では見事に模倣をやったのける者等、様々な過去を秘めた者達が、一度あの男心を魅了する重厚なハーモニーにとりつかれたが最後、例錯した人間模様を知らぬが如くに、無邪気に吐ぶ声は、カイトの知られざる伝統とも言えます。んな仲間達も、定演が終ると、再び各々の古巣へと帰っていくのです。道草をしつつも、何とか1人歩きをと願うカイトにどうか御期待下さい。

<山本昇先生>

山本先生が長野高に奉職されてから12年の時が流れ、カイトとの毎年のおつきあひもすでに8度、私達の頼りない演奏に常に暖かい援助を頂いております。

長野高の音楽系クラブの指導を一手に受け教授されると共に、SBCアンサンブルの常任指揮その他の音楽活動にも広く活躍され、長野になくはならない音楽家を私達の先生に、いや、仲間のできる私共は本当に幸せだと感じる次第です。

<ピアニストプロフィール>

真木ちゃんとカイト……もうずいぶん長いおつきあいになります。この第8回の定演でも大中恩氏の大作を通じてお世話になる事になりました。

オヤマこと長野西高を卒業後、武蔵野音大にピアノを専攻し、現在教職その他で後進の指導に当たるとともに専門のピアノの研究に余念がありません。

その真木ちゃんにもホットな話題がちらほらとか………。

<長野高校合唱班プロフィール>

昨年はステージを持ちませんでした、今年は少人数ながらも日頃の成果を発表致します。

金鶏祭、コンクール、夏合宿等々相変わらず頑張っている現役諸君、4人集まれば大合唱が始まり思わずウットリ(?) 最近では、手製のリッパな雀台を班室に持ちこみ、4人集まれば……。乞御期待!

カイトのあしあと

昭和40年	発足	
41年4月3日		第1回定期演奏会 「月光ピエロ」他
42年4月1日		第2回定期演奏会 「枯木の太陽の歌」他
43年3月29日		第3回定期演奏会 「富士山」他
44年3月30日		第4回定期演奏会 「雨」他
45年3月29日		第5回定期演奏会 「山に祈る」他
46年3月26日		第6回定期演奏会 「荘厳ミサ」他
47年3月29日		第7回定期演奏会 「智恵子抄」他
その他、毎年、夏期、冬期の総会、練習、カイトのメンバーの中で何人かが長野高校合唱班の夏期合宿につき合って心おきなく先輩風をふかせるのも、これまた毎年のならわしとなっております。		